



# みらく

— MIROKU —

Kambara  
Family

No. 13

2019年8月8日発行

子ども、教育、みらい  
地域から国へ、国から地球へ

広がるヒューマン・サポート

-Human Support-

## 小学校は 地域の宝 イエナプランという 教育システム

今年の3月、中国新聞にとっても興味深い記事が掲載されました。内容を要約すると、「それぞれ年齢の違う子どもが同じ学校の同じクラスで学ぶ『イエナプラン』という新しい教育システムを福山市の教育委員会が取り入れ、それを常石小学校の校舎・設備を活用して実施することが決まった」というものでした。

イエナプラン教育を少し詳しく説明すると、ドイツで生まれオンラインで普及している教育法で、年齢の違う子ども（1年生から6年生まで、1クラス30人）が同じクラスで関わり合うという教育法です。これによって、年齢を超えて協力し合うことを身につけ、生徒それぞれの理解度や興味に合わせて

て学習できる効果が得られるというものです。

意外と思われるかもしれませんが、この記事と常石グループは深くつながっているのです。なぜなら、この教育法を取り入れた学校の設立・計画・実施は常石グループのバックアップ（2018年12月正式提携）によって成立した経緯があったからです。提携の内容は、施設や設備の構築・整備の他、日本語学校運営のノウハウを提供して外国籍の児童の学習支援なども含めて全面的に支援するというものです。

話は前後しますが、地元の小学校であり神原家の人々も深く関わってきた常石小学校は、廃校が予定（2022年）されていた。つまり、常石グループの多くの企業が集結する常石地区に小学校がなくなってしまうことが現実化しようとしていたのです。小学校や中学校の存続は、常石に関わらず地域社会にとって大変大きな問題です。地域の学校がなくなる↓若い子育て世代が住まな

くなる↓高齢化する。最もシビアに考えただけでも、こうした未来につながるのです。

常石グループ発祥の地であり、現在も多くのグループ企業とその関連企業が集まる常石地区に子どもがいなくなることは、避けなければなりません。そのために、イエナプランという新しい教育法を取り入れた学校の新設は、とても意義の深いものとなるのです。

## 常石小学校と神原家の 関係

常石小学校と神原家のつながりは非常に強いものがあります。それは、第2世代の神原和枝、神原秀夫から始まり、第3世代、第4世代のほとんど全員が入学・卒業した地域の小学校というだけではありません。もちろん常石グループ従業員の子弟が通っていた、通っている、地域の小学校というだけでもありません。

もっと深く、常石小学校の設



神原勝太郎胸像

立、移転、新校舎の建設まで、神原家と常石グループは物心両面で支援してきた経緯があるのです。ご存じだと思いますが、初代の神原勝太郎はわずか9歳で尋常小学校を退学して、家と家族のために働き始めた人です。そんな彼が、「一番悔やんだのは「教育を受けられなかった」ということでした。ですから、地域の子ど



ツネイシ花火 2017

もたちが勉学に励む施設としての小学校に対する思い入れは、人一倍大きなものであったのです。ある時は私財を提供し、ある時は千年村議会を動かして地域児童の教育の場としての常石小学校を支援し続けてきました。もちろん、第2世代、第3世代、第4世代の人たちも、常石小学校に対しての支援を惜しみませんでした。

そんな常石小学校がなくなってしまうかもしれません。ファミリーの思い入れはいったん置いておくとしても、地域の発展という観点からは小学校がなくなることは絶対に避けなければなりません。なくなってしまうなら新しい学校を、それが新たな発想から生まれる新たなタイプの小学校であるなら、なおのこと支援と協力を惜しむ理由はないのです。

前項で紹介したイエナプランシステムを取り入れた新しいタイプの小学校を、常石小学校をベースとして立ち上げるプロジェクトとの提携は、こうした経緯によるものであったのです。

## 「学び」への強い思い

### 若者への教育機会を提供する神原育英会

9歳で小学校を自主退学した初代神原勝太郎は、やがて海運業で成功しました。しかし、彼は教育の大切さを痛感していました。それが常石小学校への各種支援につながっています。そしてもう一つ、勉学の能力も意欲も高いにも関わらず、かつての自分のような境遇（貧しさ）ゆえに上級の教育を受ける機会を失う郷土の若者たちに、上級の教育を受ける環境を提供したい。それが若者の未来、やがては沼隈郡や千年村の未来を切り開く助けになるはずだ。

こうして立ち上がったのが「神原育英会」（1954年設立）です。若者の学資補助と組織の運営に充てる資金は、当時勝太郎が所有していた鉄鋼船「第二天丸」の運航利益金の全額を投入することになりました。つまり、私財を提供して若者に未来を夢見てもらおうというのです。

1954年の神原育英会設立以来、勝太郎が亡くなった1961年までの8年間の記録が残っています。これによると「1962年現在、学資資金貸与学生95名、内卒業生75名、在校生20名、進

学先は官公私立大学および高等学校二十数校にわたっている」となっています。勝太郎生前のわずか8年間だけでもこれだけの実績を持ったという事実は、神原育英会によって多くの学生・生徒が未来を見出したことを物語っているのではないのでしょうか。

### グローバルに広がる教育支援の輪

神原育英会の精神は確実に引き継がれ、現在では64年もの歴史を持つ育英会として多くの学生に教育の機会を提供しています。奨学金提供者数は、延べ600人をはるかに超えています。平成以後は高校生の利用者はほとんどありませんが、理系・文系・芸術系の区別なく、より高い教育機会を得た彼らの活躍は、設立に力を注いだ人々、それを引き継いで現在の育英会を運営する理事、評議会、スタッフにとって大きな喜びとなっています。

当初の奨学金提供対象者は沼隈地区の若者でしたが、そのエリアは広がり、備後地区、広島県と岡山県、そして全国の学生を対象とするようになっていきます。また、日本人対象者以外にも、弥勒の里国際文化学院日本語学校の生徒の何人かも、この育英資金を利用して日本の教育を受ける機会を得ています。さらに、フィリピン、中国、パラグアイ、ウルグアイなど、常石グループと



ツネイシフェスティバル 2018

関係の深い国々の若者にも教育の機会を提供するなど、地域や国を越えてグローバルに広がっています。

## CSRと いう発想

### 無意識のCSRと 新たなCSR

事業の成長は雇用の創出につながる。雇用の創出は従業員の生活安定につながる。従業員の生活安定は地域経済の発展につながる。本来、企業の社会的使命とはこの3つ（法令順守は当然のこと）をクリアしていれば完結だったはずだ。





しかし、ここからもう一歩踏み込んで、地域社会の人々の住民生活の向上への支援を多方面、なおかつ持続可能な状態で展開しなければならぬ。そんな第4の社会的使命をクリアすべきという考え方が、企業関係者の中に広がり始めています。これをCSR (Corporate Social Responsibility) といいます。簡単にいうと「会社の経営者は、自分の会社の発展を社会の発展に結びつける責任を負っている」という考え方です。

ここで前の2項「小学校は地域の宝」「学び」への強い思いをもう一度読み返してください。常石小学校のイェナプラン校化も、神原育英会の立ち上げと運営も、どちらもCSRの考えのもとに展開されてきた（展開されている）ものだったということが分かると思います。

## 活動報告

### 子どもの健全育成

2016年4月1日	松永東保育所へ遊具を寄贈
2015年8月18日	和太鼓コンサート リハーサル見学・演奏体験イベント@府中
2014年8月31日	みろくの里サマースクール2014@福山
2014年8月8日	「ゼノ」やまびこ学園 海水浴招待@福山
2014年4月30日	2014 光信寺スプリングスクール@神石高原町
2014年4月1日	みろくの里スプリングスクール2014@福山

### 地域活性化

2015年7月23日	ツネイシ花火開催@尾道
2013年12月11日	人・まち・ふくしフェスタ2013@うつみ・ぬまぐま@福山
2013年11月29日	ツールどいくちじま@尾道・生口島
2013年10月17日	フロアホッケー大会@広島市
2013年10月1日	お蔵出し映画祭2013@尾道・福山
2013年8月10日	「ゼノ」やまびこ園 海水浴招待@福山

### 文化伝統支援

2014年2月10日	第7回光信寺新春神楽共演会@神石高原町
2013年1月17日	第6回光信寺新春神楽共演会@神石高原町

## ツネイシみらい財団

こうしたファミリーのDNAに刻み込まれ、その延長線上にあるグループ各企業の社会貢献（CSR）という考えのもとに生まれたものの一つとして、「ツネイシみらい財団」（2010年設立）の支援活動があります。地域住民、行政組織、企業（常石グループ）が協力し合いながら「地域活性化や子どもの健全育成を通じて、地域社会の皆様により豊かな生活を支援する」というこのプロジェクトの運営は、多くの人々の理解と共感を得て、活発な活動を展開しています。

常石グループは、その原点である海運業から、造船、エネルギー、環境、ライフ＆リゾートに至るまで、設立、発展、可能性のすべてにおいて、地元である福山市、尾道市の人々と深い縁を持っている企業グループです。このことは、ツネイシみらい財団の「地域貢献」に大きな意味を持つものです。事実、設立から今日まで、活動を支援した団体、助成・協賛したイベントのほとんどは、福山市と尾道市に関係したものでした。

こうした地域密着型のCSRと並行して、新たな動きが始まりま

## ツネイシみらい財団の未来

した。それは「一般財団法人ツネイシみらい財団」の従来の動きと並行して、「公益財団法人ツネイシみらい財団」（2015年設立）としての活動です。「一般財団法人」と「公益財団法人」。この二つのツネイシみらい財団の違いは、次の通りです。地域に密着した事業支援、イベントの助成・協賛などの活動をする「一般財団法人」。これに対して、広島県や岡山県をはじめ、中国地方全般の広大なエリアをカバーする「公益財団法人」。このようにすみ分けしていくことを計画しています。

## 地球レベルのCSR

着々とエリアと実績を広げる常石グループのCSR。これと並行するように、海外の拠点でもCSRに関連する各種の活動を展開しています。例えばフィリピンのバランバンでは、医療、教育、自然環境の充実による地元社会資本の整備に関する活動。中国では医療、教育環境の整備などによる地元の人々の暮らしサポート。また、南米では教育支援（奨学金）、スポーツ大会支援など、主に人材育成に関連する支援活動を展開するなど、常石グループのCSRは地球レベルですそ野を広げようとしています。

## 第7回

## ファミリー総会

3月30日(土)、無明院において  
ファミリー総会を開催しました。

## スケジュール

15:00	先祖供養、家長挨拶 サマースクール報告
15:50	写経
17:30	夕食会(ペラビスタ)
20:30	終宴



## アンケート結果

26.1%

とてもよかった

56.5%

よかった

13.0%

ふつう

4.3%

あまり  
よくなかった

## ご意見・感想

- ・年齢や性別に関係なく参加できるレクリエーションや体験はいかがでしょうか(おじいちゃんと孫など、さまざまな世代でコミュニケーションを取ることができる)。
- 〈遊〉ボードゲーム、囲碁、将棋、麻雀
- 〈聴〉JAZZ演奏会など
- 〈作〉アート製作、料理、お菓子
- 〈動〉パターゴルフ、サイクリング(神石)
- ・夕食時に子どもたち数人に(小・中・高・大)、「がんばっていること」や「学んでいること」などをスピーチしてもらったり、演奏などデモンストレーションをしてもらいたい。
- ・たまにしか会わない子どもたちの成長を皆さんと分かち合いたい。
- ・1年に1回皆さまに会えて良かった。子どもたちの成長が楽しみ。あまり気張らず、末永く続くようにと願っています。
- ・射的や輪投げがあって楽しかった。
- ・親族の皆さまと集まって話してできる貴重な機会で、いつも参加させていただきありがとうございます。
- ・まずは参加者が増えるように、気軽な感じ、食事会だけでも良いのかもしれない。
- ・第5世代のためのイベントであれば、大浜のバーベキューでもいいかもしれない。
- ・第5世代が大きく成長していて、とても頼もしく思いました。もっと世代を超えて話し合える場が欲しいと思います。
- ・新年の半日で良い。お金がもったいない。親たちが面倒を見ないといけないほど仲悪くはない。
- ・福山だけでなく、他の遠くにもみんなで行きたい。
- ・ディズニーランドに行きたい。(2件)
- ・木魚を叩く体験(ミニ木魚・子供みんな)。

## 今年もサマースクールに4人が参加します

神原 牧穂さん



イギリス

神原 璃穂さん



イギリス

神原 小百合さん



イギリス

武田 華穂さん



スイス





# 今『生徒会&山岳部』に夢中です!

第5世代の方に、自分が「今」  
好きなものを自由に紹介してもらいます。

神原 一輝さん



## >>>> 生徒会

>>>> kazuki kambara

僕が今夢中になっていることは、生徒会運営です。僕は先日行われた生徒会長選挙に立候補し、令和元年度の生徒会長になることができました。これまでの生徒会は、中学で生徒会に携わってきたメンバーが高校で生徒会長になることが慣習でした。



>>>>

今回、僕は「今まで生徒会運営に携っていないからこそ、新しい視点で新しい風を送る」というキャッチフレーズをもとに選挙に臨みました。相手は元中学生徒会長だったため正直勝つことは難しいと思っていましたが、そのおかげで直前まで自分の気を緩めることなく選挙に挑めました。そのことが、勝利へつながったのだと思います。

>>>>

当選したからには、自分の公約を実現させなければいけません。さらに、この1年自分は生徒会長なんだという自覚を持って行動し、生徒の期待に応えていきたいと思います。公約実現に向けて今まで生徒会に携わってきたメンバーと手を組み、一歩ずつ着実に本丸に攻めていきます。また、部活動である山岳部も並行して取り組みたいです。

>>>>

最後に、生徒会では人をまとめる立場になりました。今、普通の生徒であれば経験できないような経験をさせてもらっています。生徒会は奥深い所です。小・中学生、高1の皆さん、ぜひ生徒会に目を向けてみてはいかがでしょうか?

▼生徒会集合写真



## >>>> 山岳部

▼八丈島に着いてすぐにテントを建てました。この時この4人は八丈島まで船の甲板にいたので、船酔いもせず元気でした。



▼この下り坂は実は登っている時のものなんです。という山に登るために山を下る行程があるのです。



▲このような場所には鎖がついていて鎖場といえます。

▼頂上は気持ちいい! 市内を見渡せる岩殿山は最高です。



▼登山の後はこういった清流で汗を流します! 着替えを忘れたらこの爽快感は味わえません。



▼陣馬山にて



▲富士山を奥に友達と! この時、山菜天ぷらを食べました。これがうまい!



▲景信山から富士山を望む

>>>> 次回は、  
武田 浩樹さんに  
リレーします。  
お楽しみに!





# 成人おめでとうございます

社会に貢献  
できる大人に



神原 健人さん

成人を迎え、これまで支えてくださったすべての方々に感謝の気持ちで一杯です。  
これからは大人として扱われる反面、甘えは許されないとあります。言い訳をせずに自分の決めたことや行動に責任を持てるようになりたいと思います。

今はまだ学生として学業に励む日々ですが、社会に出ると今までよりも難しい判断をしなければならぬ時や、理不尽なことに遭遇するかもしれません。しっかりと自分自身で物事を見極め、どんな時でもあきらめない人になりたいです。そのためにも大学で多くの知識を吸収し、失敗を恐れずさまざまなことに挑戦していきたいです。そして社会に貢献できる大人になりたいです。

父より

素敵な人とのご縁を大切に、良きものに触れ、良き本に巡り合えさえすれば健人の将来、何も心配はしていません。



今だからこそできること

武田 浩樹さん



武田浩樹です。二十歳になりました。二十歳を成人というのであれば、子どもという見られ方を過ぎ、大人の仲間入りを果たしました。両親と姉姉に感謝です。THE昭和父、みんなのアイドル母、M.T.自立兄、M.S.風神雷神姉。みんな独自の路線の中で僕に愛情を注いでくれたと思います。ありがとう。そして浩士おじいちゃん、永子おばあちゃんも、ありがとう。昔、お座敷で鬼ごっこ中にふすまを破ったこと、忘れていません。本当に優しいおじいちゃんおばあちゃん、大好きです。

思えばこれまでの20年は、あつと言った感じがします。8月になれば、もう21になります。歳を取ると過ぎる時間がどんどん早くなると年長者が口をそろえておっしゃっているのはこれなのかと、す

父より

浩樹君

ようやく海外から帰ってきたと思ったら、2日もしないうちにインターンシップだと言って東京のベンチャー企業に行ってしまった。時代は変わったもんだね、とお母さんと話をするのです。いや、なかなかやるね。

君が昨年9月からカナダに留学に行くところまでは全く心配していませんでしたが、今年2月、急に南米に二人旅をすると言いついた時は、どうやって思い留まらせようかと本気で考えました。

ポリビア？どこだそれ。ウユニエン？何だそれ。

何も分かつちやいない、バックパックならアジアやヨーロッパで経験を積んでからだろう！（やったことないけど）。しかし向こうに行つてしまっている以上、もう何を言つても無駄か。ならば「せめて命だけは持つて帰つてきてね」と、母の気持ちで見送つたのでした。

おお、よく無事に帰ってきたな（父）。

もともと君は3番目だからのびのび育つてくれたと思つていますが、ナイーブな二面もあったと思う。ですが中学、高校、大学と進むにつ

二十歳を迎えられた  
神原健人さん、武田浩樹さん、  
そして親御さんからお言葉をいただきました。



でに実感しています。これまでも増して、1日1日を大事に生きようと思います。

さて、今、僕は通っている立命館アジア太平洋大学の1年休学を取得し、カナダと南米を見て回つたのち、東京でインターンをしています。生まれて20年続いてきた「ぬくぬく生活」を離れ9か月が過ぎ、新しいものがたくさん見えてきました。そして良し悪しに関わらず、周囲の人、環境のすべてに感謝することを忘れてはならないなと本当に感じました。

今のところ今秋より大学に復帰する予定ですが、皆さんへの感謝を大切にしながらも、今だからこそできることは何だという観点からいろいろな挑戦をしていきますので、よろしくお願いします。

れてだんだんと図太くなつてゆき、今回の旅を経験してからの君は、以前にも増して物怖じしなくなりました。頼もしい。

だから、可愛い子には旅をさせろつて、と今だから言えるのですが。ただ、君がここまでいろいろなトライができるようになったきっかけは、高校1年と2年の時に2回もサマースクールに参加させてもらったことが、とても大きな自信になったのではないかな。本当に感謝しなければなりません。その分しっかりと学んで経験を重ね、受けた恩はきちんと次の世代に義理で返す。そんな男になつてくたさい。

10月からは復学ですが、APUは以前ファミリー総会でお話をうかがった出口さんが学長で、ご縁も感じます。友人の国籍もさまざまなようだし、いろいろなチャレンジを奨励している面白い大学だね。ちゃんと卒業することを前提に、これからのいろいろなことにトライし、思いもよらないような人と体験に出会つてくたさい。

君を支えてくれる大勢の人たちの存在を忘れないこと。人と比べず、自分を磨くこと。

それと、バイクは125までで我慢すること。がんばつて！